

広島赤十字・原爆病院での後期研修を振り返って

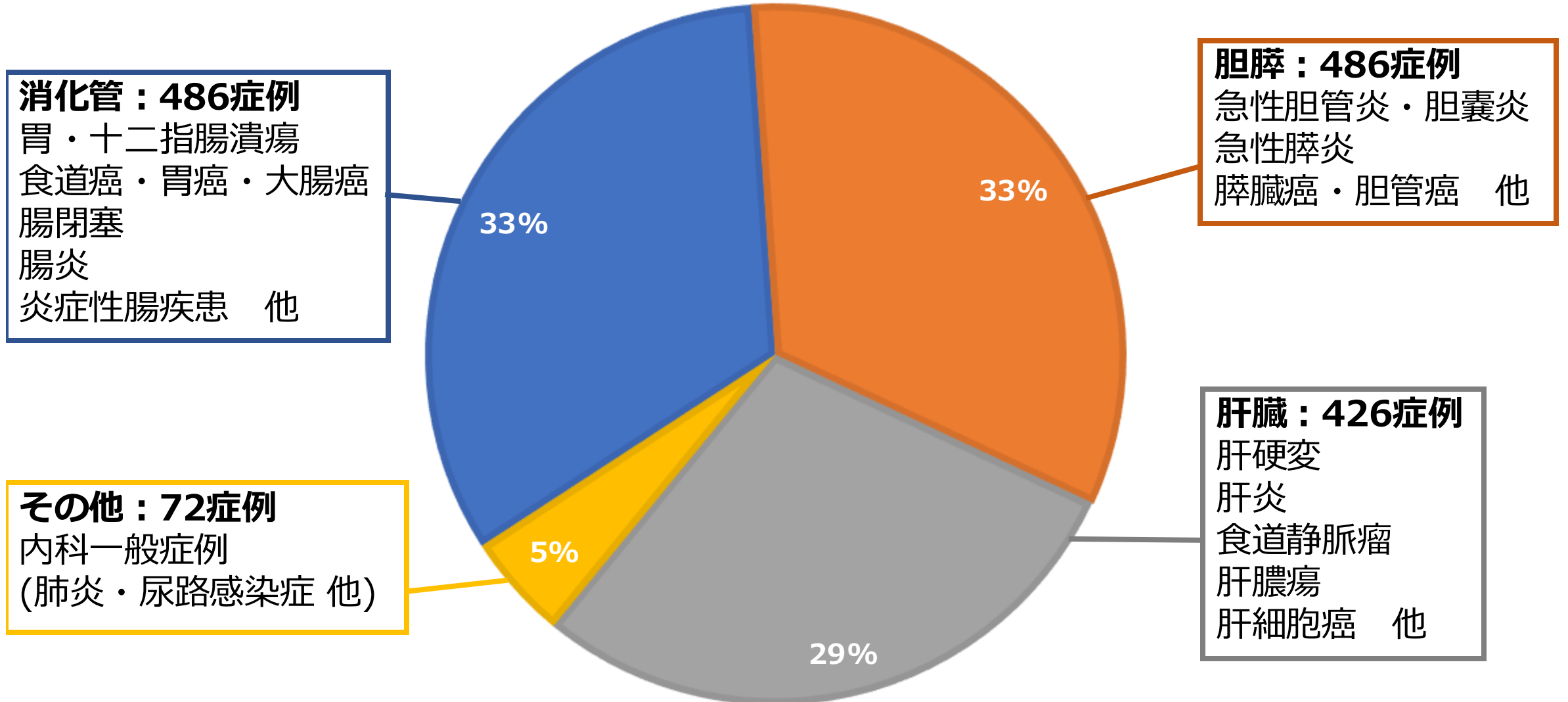
広島大学 第一内科同門会賞 優秀賞



広島赤十字・原爆病院
消化器内科
福田佳保

業績 ~3年間を通して~

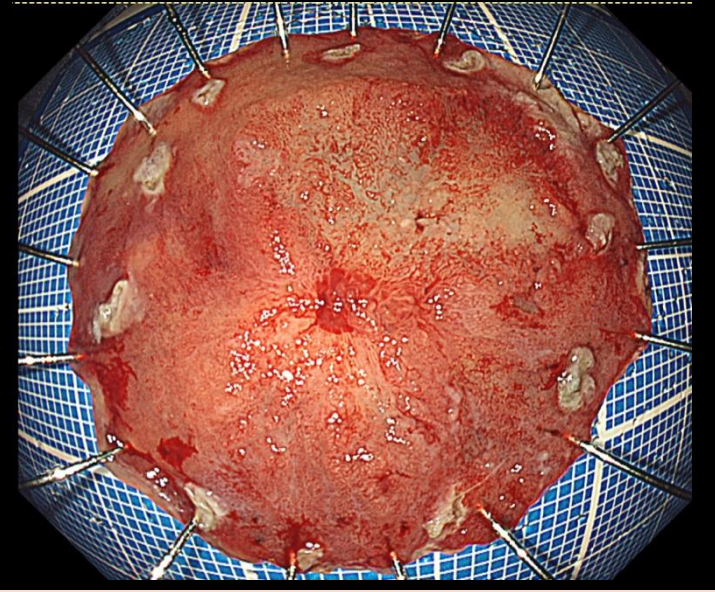
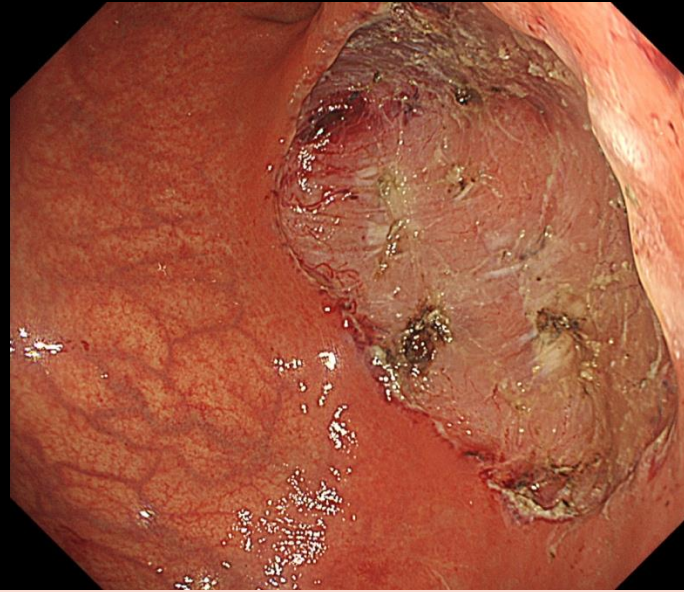
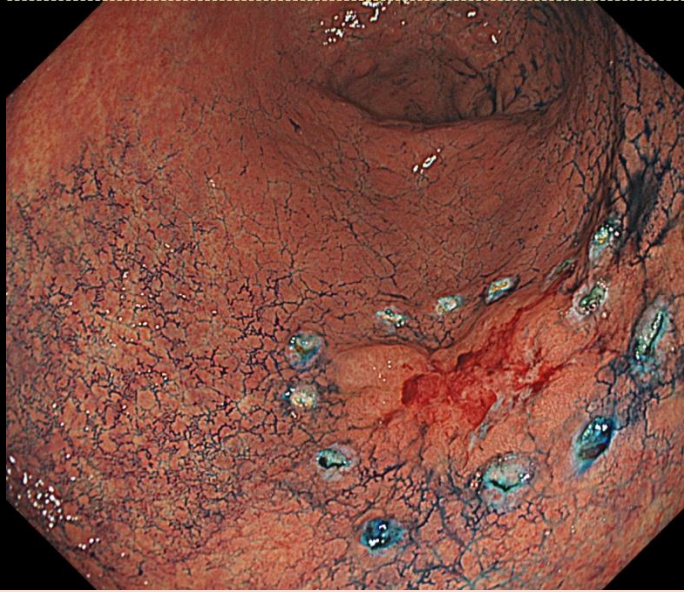
担当入院患者：1470症例（12月23日時点）



業績 ~3年間を通して~

主担当として経験した手技	件数
上部消化管内視鏡	1814
大腸内視鏡	519
胃ESD	21
大腸EMR	85
EUS	30
EUS-FNA	15
ERCP	194
PTGBD	30
EVL	42

胃ESD



ERCP



業績 ~3年間を通して~

論文

- 腹部超音波検査が有用であった横行結腸癌による逆行性腸重積症の1例,
日本消化器病学会雑誌2023年120巻10号 845-851.

口演

- 典型的画像所見を呈した大腸癌による成人腸重積症の1例,
第58回 日本超音波医学会中国地方学術集会, 2022年9月3日
- 腹部超音波検査が発見契機となった大腸癌による腸重積の1例,
第118回日本消化器内視鏡学会中国支部例会, 2022年12月10日
- レンバチニブ投与後に腫瘍内破裂を起こしてTAEを施行した巨大HCCが
レンバチニブ休薬後もCRを維持している1例,
第120回 日本消化器内視鏡学会中国支部例会, 2023年11月18日
- 巨大HCCに対するレンバチニブ短期投与で起こった腫瘍内出血にTAEを施行した後
6ヶ月以上CRを維持している症例,
第60回 日本肝臓学会総会, 2024年6月13日

症例報告

腹部超音波検査が有用であった横行結腸癌による 逆行性腸重積症の1例

福田 佳保 岡 信 秀 治 岡 本 拓 也
 坂 本 愛 子 田 中 裕 輔 保 田 和 毅
 河 野 友 彦 高 木 慎 太 郎¹⁾ 山 口 将 平²⁾
 古 川 善 也¹⁾

要旨：症例は78歳、女性。腹部超音波検査にて肝彎曲付近に multiple concentric ring sign と口側方向に嵌入する腫瘍を認め、逆行性腸重積症と診断した。切除標本では横行結腸に48×40mm大の1型腫瘍を認め、pT2NOMOの診断であった。腹部超音波検査にて先進部腫瘍の性状や腸管虚血の有無をリアルタイムに評価することが可能であり、診断および治療方針の決定に有用であった。

索引用語：逆行性腸重積症、大腸癌、腹部超音波検査、腸重積症

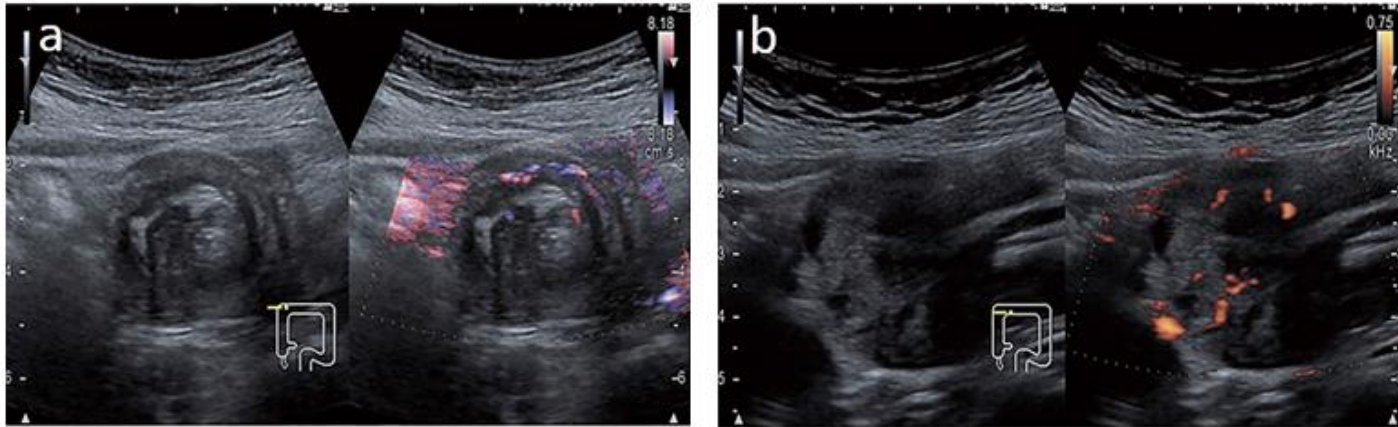


Figure 1. 腹部超音波像 a：短軸像（Bモード，カラードブラ法）。大腸肝彎曲付近に約45mm大の multiple concentric ring sign を認め、腸間膜の血流は保たれていた。b：長軸像（Bモード，パワーブラ法）。充実性腫瘍が先進部として口側方向に挿入され、逆行性の腸重積症と診断した。

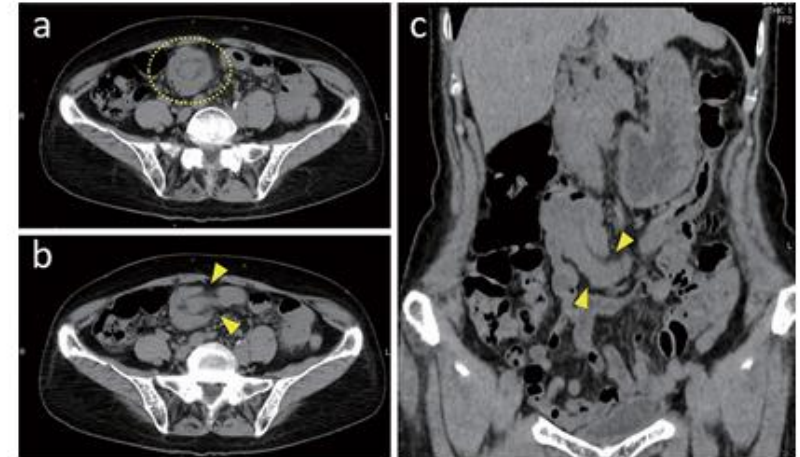


Figure 2. 腹部単純 CT 画像 a, b：水平断像。c：冠状断像。横行結腸に同心円状構造を認め（点線丸印）。その近傍で腸管が口側方向に嵌入する腸重積像を認めた（矢頭）。

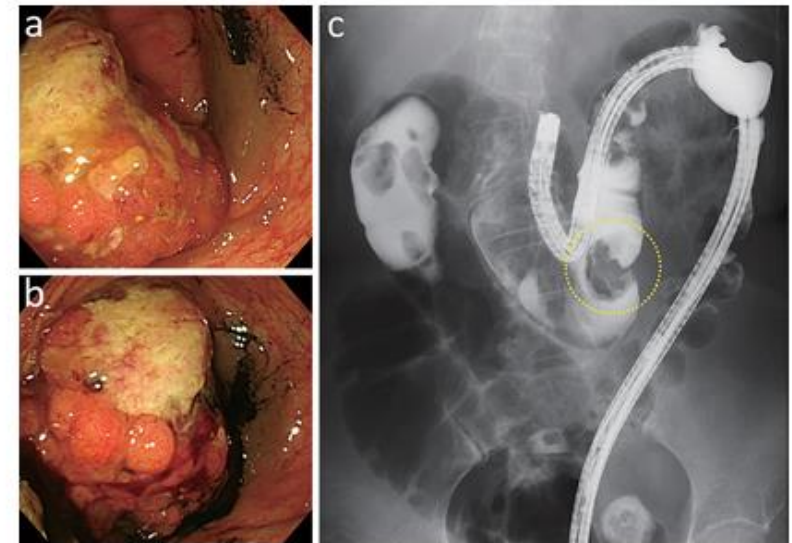


Figure 3. 透視下下部消化管内視鏡像 a, b：内視鏡像。c：ガストログラフィン®造影。横行結腸脾彎曲寄りに40mm大の1型腫瘍を認めた（点線丸印）。観察時には重積は自然解除されており、横行結腸は長く蛇行していた。

今後とも宜しくお願い致します。



古川院長、第一消化器内科、第二消化器内科、総合内科、健診部、+研修医